

外国人労働者で地域活性化

県立岡山一宮高校 原田寛大、佐藤亮太、船橋孝英、

○はじめに

1. 動機

外国の技能修習生の方が職場で劣悪な環境におかれているというニュースと中山間地域では、働き手が不足しているというニュースを見てこの両者を関連づければ解決するのではないかと思った。

2. 目的

- ・外国人労働者を雇うことで地域を活性化を図る
- ・外国の方が働きやすい環境とはどのようなものか考える。
- ・日本人が外国の差別や偏見をどうやっとなくせるか考える。

3. 仮説

- ・私達日本人が外国の方に対する偏見や差別をなくすことで日本に来る外国人労働者の数も増えるのではないか

○まとめ

1. 結論

「外国人を問題なく受け入れることができるか」という質問に対して「人を出身地や人種ではなく、その人の内面で判断すべきだから。」という肯定的な回答があった。

一方で自分が外国人に苦手意識を持っているから。「どうしても言語の壁を感じたり見慣れぬ容姿に動揺してしまうから」などの回答もあった。

2. 今後の展望

地方都市の企業が外国の方を受け入れることで、労働者不足を解消できるのではないか。また労働の担い手としてだけでなく、地域を定期的に訪れ地域との関係を築いてもらえるパートナーとしての関係の構築方法がないかを探っていく。

○研究内容

1. 調査方法

外国人労働者についての論文をもとに現状を調査

2. 調査対象

岡山一宮高校2年生（187人）

外国人の語学教室を運営しているNPO団体

3. 調査内容

(1)中山間地域の課題と外国人労働者の課題を論文で調査

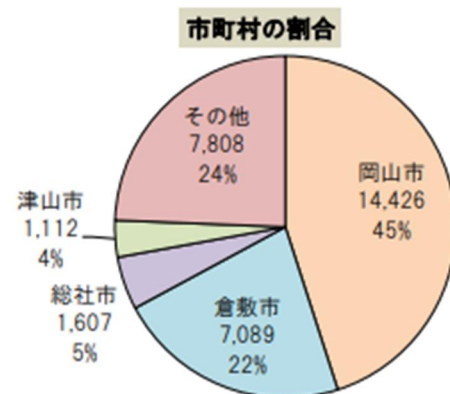
(2)岡山一宮高校二年生を対象に外国の方に対するイメージ調査のアンケートを行った

(3)NPOにインタビューを行った



○研究結果

4. 調査結果



5. 考察

- ・外国の方の受け入れ体制と支援を整えることで定着率が向上するのではないか
- ・現在円安、物価高のため今後外国人労働者が増える可能性は低くなるのではないか

日本は特定技能の資格がないと働けない環境であるので環境を整備すれば増えるのではないか

○参考・引用文献

<https://www.city.soja.okayama.jp/data/open/cnt/3/5167/6/houkokusho.pdf>

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/868657_8256671_misc.pdf